

## 熊本大学学術リポジトリ

### Kumamoto University Repository System

Title	入學式に於ける中川學校長告辭
Author(s)	中川, 元
Citation	龍南會雜誌, 19: 1 - 3
Issue date	1893-10-09
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/4102">http://hdl.handle.net/2298/4102</a>
Right	

## 入學式に於ける中川學校長告辭

○本校の生徒の目的は立身報國の基を建つるにあり

本校の生徒は御國の臣民衆きが中にありても既に高尚の志望を抱きて學業を修むる者あまれば皆萬衆の先達をあす人々ありされば他日専門の學校に登り益高尚の學術を研究し後來大に爲す所あるはいふもさらなりよし本校卒業の後直に各々その業務に就くともよく一身一家の資望を保ち尙も進みて國の爲め公利公益を興すものは中等以上の人と云て愧づることあかるべし

ろれ一國の文明富強は其臣民の徳性と知識と体力とに關することは云ふまでも云ふべきを國家の骨髓とありて元氣を振作し文明を裨補するものは實に中等以上の人の責任にぞあるべき諸子はすなはち中等以上の人あれば此責任を悉すの覺悟ある者としらる世には志操恒かく廉恥の何物たるを辨へず朝に此事に志ま夕に彼業に趨く徒の如きもあれどこはをこの者にしてれのが身を立つることすらかし能はず況えてや國に悉すかどは思ひもよらぬ事あらすや諸子は深く省み篤く思ひ將來彌や増しに拮据勉勵して有爲有徳の人物となり公衆の利益を進め國恩の萬一に報じ奉らんことを期せらるべし

○智を研ぎ徳を養ひ知行一致を期すべし

智を研きて諸の道理を知りまた事の是非善惡を辨ふるは人としてなくては叶はぬ所爲あり況て今の

世の日毎に文明とある時に於ては萬の智識を要すること多ければ智を研ぐの必要は云ふまでも  
 玄さま智を研ぐと共に徳を養はでやあるべき徳とは忠孝友愛などのごとく善き事を己が身に確  
 と執り行ひ己が物とされるものゝ名にして最と大切あることあるぞかしも智識のればとて徳を  
 ければ何かせん決して善良ある結果を得ること能はず譬へば花に玄て毒あるが如く誰か愛でいつ  
 くしむものあらんたい己を害し人を賊ふに終らんのみ故に智徳は恒に併び進まんことこそ肝要な  
 れ今の青年輩は兎角智を研ぐに汲々として徳を養ふに遑あさがとどし抑々徳を養ふの要は己に充  
 ち良心を發達せしむるにありもし己に克つの工夫なく良心を荒廢のまゝにしおは放僻邪侈至らざ  
 るはちからむ知行一致とは既に心に知る所は身に行ひ即學ぶ所をして應用を得せしむるをいふ學  
 科によりてはひたふるに論じ難けれども倫理などは之を捨てゝ他のすべからず假令萬卷の倫理書を  
 讀破し蘊奥を究むとも徒らに其原理を知得るのみにて之を得行はざれば亦何の用をかあさむ然れ  
 ども知行一致は言ふ事易くして行ふこと難しかし我々も諸子と共に之を勉めあひ諸子之を怠り  
 ろよ

○切問近思躍等を戒むべし

切問近思とは學問工夫の要法にぞある如何に教師の授くること懇切ありとも生徒自ら憤懣するこ  
 とあくばよも活用を得ること能はじ講學の益は質問は在り質問すれば其疑解けざるものぞあさ然  
 れども質問するに當りては虚心平氣問ふ事切實にして徒らに無益の穿鑿をなし貴重の時間を費す  
 べからずかつ切問するも思はざれば會得すること能はず思を致すの目的は實際よつきて近思し決  
 えて空想に馳す可らず畢竟切問近思は相須ちて用をあすにこそあれ方今の學生は往々六箇敷き事

を穿鑿するを好み高遠に馳せて實用に疎きの傾あり固より學問の講究は唯自己の必要の點に止めず深く其原理を推し究めずればゆるはあらまほしきことあれども所謂高きに登るはかならず卑きよりするの意を誤ることなかれ

○至誠を重じ禮節を慎むべし

至誠は萬事をあずの基本にして禮節は操行を持するの要道なり中庸に誠なければ物あしといへり何事も眞心を以てあしゆかざれば假令あしたりとも其甲斐ぞあきものある苟も至誠の應用を得んと思はれ自ら良心を欺くあく本氣にありていろしとせば何事も成就せざるはあからんづつ至誠は人に接する上に於ても欠くべからざるものなり人に接するには親愛恭敬は必要ある者あれ共親愛も恭敬も至誠を以て之を貫かざれば形体上の虚飾のみにありて遂には交誼を全ふること能はざるに至らん故に諸子は至誠の工夫はつかの間も忽にすべからず禮節は主とて操行を持するものあればればやけに人にむかひて行ふのみならずうちある舉動にもこれが工夫を闕がざらましかば自ら人物の品位を高うして必他人の尊敬を得べきかつ上下の秩序を保たしむるは之より宜ききは莫しむげに社會の秩序を失はしめんか一日も之が安寧を得保たざるべしわけて學校は教の因りて出づる所あれば極めて之を重せざるべからず禮節を行ふに方りては單に形体上に止おらず精神上より之を行ふ時はしばしは窮窟と思ふことあるべけれ共固より道理上已むを得ざるの制裁あれば習慣の久き遂には之を踐まざれば心に安せざるに至るあるべし故に諸子は自ら輕せず自ら驕らず校の内と外とを問はず禮節を慎みてゆめ／＼生徒たるの本分を竭すことを忘れざらん